

適正利用・エコツーリズム検討会議からの報告

1. 知床の観光・レクリエーション利用の新制度：知床エコツーリズム戦略実施

○知床エコツーリズム戦略を最終決定し公表

平成 24 年度の適正利用・エコツーリズム検討会議（以下、「検討会議」）において、知床エコツーリズム戦略（以下、「戦略」）及び事務取扱要領（提案にあたっての具体的な手順や手続き等を定めたもの）を最終決定し、平成 25 年 4 月から実施した。

○知床エコツーリズム戦略の試行結果

平成 24 年度は戦略(案)に基づいて試行的に提案を募集し議論した。地域関係団体から 3 件の提案があり、②、③に関しては最終承認し実施、①は継続検討となった。

①知床五湖冬期利用促進事業(提案者：斜里町観光協会)

登録引率者による引率を前提として冬期の知床五湖の利用を提案。そのため、冬期閉鎖された道道知床公園線の除雪を実施し、知床五湖まで車両での送迎を可能とする。

②知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画(提案者：斜里町観光協会)

観光客によるヒグマへのエサやり禁止の周知を提案。構成団体の協力の下、様々なツールを活用し啓発活動を進める。

③知床沼の野営禁止によって生じた諸問題とその解決に向けた提案(提案者：羅臼山岳会)

知床沼での野営禁止について、一部解除を提案。野営可能とすることにより山岳遭難を防止し、区域の限定により植生保全を図る。

○知床エコツーリズム戦略による提案・検討の状況

7 月 29 日の第 1 回検討会議において知床ガイド協議会から提案のあった「知床ロングトレイルプロジェクト」について審議した結果、本提案に関する検討部会の設置が承認された。

○順応的な観光の管理へ

今後、検討会議は合意形成の場から地域との協働型管理の機会を提供する場に移行する。そして戦略の仕組みを活用し、地域からの発想で方策を検討することが基本。提案の検討や承認、承認後の事業評価やモニタリングが検討会議としての役割となる。

検討会議は性質を変えつつあり、ワーキングメンバーの役割も、地域からの提案へのアドバイザーとなりつつある。そこで、検討会議のあり方の検討と検討会議の委員や構成団体の再検討を想定。

2. 平成 25 年度の検討会議開催状況と今後の主な予定

○平成 25 年 7 月 29 日 第 1 回検討会議

- 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の審査。
- 検討会議の今後のあり方の検討。
- 適正利用に関する最新情報の共有のための報告（小林委員・愛甲委員・北海道）。

○平成 25 年 2～3 月 第 2 回検討会議

- 知床エコツーリズム戦略に基づく提案の審査。
- 検討会議の今後のあり方の検討。
- 適正利用に関する最新情報の共有のための報告（講師未定）。

3. 個別地域における検討状況

従来から検討してきた地域の検討状況については以下の通り。こちらも部会となっているが、戦略に基づく部会とは性質が異なる、「実施」のための部会である。

○知床五湖の利用のあり方協議会

- 利用調整地区制度の平成 26 年度からの運用見直しに向けた協議を今年度から実施。
平成 25 年度のヒグマ活動期に新規運用法を見据えた実験を実施中。

○カムイワッカ部会

- 平成 25 年 3 月に立ち上げ。マイカー規制の平成 26 年度からの運用見直しに向けた検討が実施される予定。

○ウトロ海域部会

- 海鳥の保全と観光資源としての活用を図る 3 カ年事業の最終年として事業を評価した。利害関係者の参加するプラットフォーム型の問題解決や協働型管理を確立した。今後他の事例にも移転が可能である。
なお、ウトロ海域部会は、事業終了後も民間からの支援を得て、地元関係者を主体とした新たな体制で、事業を継続中である。